



增補

物學和歌式
續方三



琴

響出

促徽

麻

世々ひびきともあり又さうりくもいふとさうりよひに
 ちくく鳴る枕の下に眠たしつう詩経の幽風ヒツフクも七亦在野
 八亦在宇ウ九亦在宇ウ十亦懸ケン醉入秋アキ牀下と云ふよりさうり
 くらひひハ馬乃ハ川ハのさよりまハ名付さうりつて
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり
 くらひひハ馬乃ハ川ハのさよりまハ名付さうりつて
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり
 麻ハ素々ハ声コエとありれとそとれく鳴る感カミとりさ付
 どんお急イハく式ハ有明乃亦鳴るをありれと落葉トクのそ
 くらひ西と麻乃ハさうりまとらひさうり風カゼよりつ
 くらひさうり麻のさとさそつせ素々さうり素々付とら
 一老乃移ウツリさめ乃ありれさうりさうりさうりくく鹿ハ
 鹿鳴カ声のこもありれさうりさうり又むさうりさうりさうり
 くらひさうり麻乃ハさうりまとらひさうり風カゼよりつ
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり
 くらひひハ馬乃ハ川ハのさよりまハ名付さうりつて
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり

駒

旧判 後者 麻乃ハさうりまとらひさうり風カゼよりつ
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり
 くらひひハ馬乃ハ川ハのさよりまハ名付さうりつて
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり
 くらひひハ馬乃ハ川ハのさよりまハ名付さうりつて
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり
 くらひひハ馬乃ハ川ハのさよりまハ名付さうりつて
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり
 くらひひハ馬乃ハ川ハのさよりまハ名付さうりつて
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり
 くらひひハ馬乃ハ川ハのさよりまハ名付さうりつて
 こすひろへのさよりま合せひすやぶさひみさうり

指衣

後集卷之三

つらまをふむふ福袋のよきよりせき袋のあはる
―とて先くわむれさかどりつて世の
うれさよとく又人の心あぶなるふよふよひの
いびまといふに女やこのはたどとみき氣ありん
れがなぶ―又は枕よりあふまといひあといま
うりてなり

秋田

秋田とよひまをくといふそのよは秋風の音は
ぬき氣をいひくちの房もたきをまかりてゆり
るんかまこと川て鹿かどどくろくともいひ秋風
ゆがひくをなることもつげ指衣の丹とくり房のよ
ながりてはりら種もいどあなをく―ともいふ又かり
よきいふは後か門田とくといひあといひ世のゆり
かり年といふかたどくといひあ―指衣のよと

指衣

いふ福袋とままあかといふ福袋とと福袋と又彼
まといててもいふかの岐ともありともいふのく
とこのせのやいそくが變はぬことつやとい福袋
しやめかとい福袋のながさよあて八束あるといふや
わごとい福袋をかきこくか田乃かかとい不可場斗
よせの約なりといひかり房いあはまづうかり―は
いづづくわらぬは福袋の久田のえりどく―
さかといも衣つともいひて詩も八月九月オキナ長夜
千聲万聲無止時とつくり八月九月や秋衣よか
か比といととと大く指衣のよひよをてげんといは
あまたり―或はといの言は福袋といて秋の衣とい
ちか人の衣といひやり又指衣のよひといは福袋とい
の衣といひこれといひといひあうといひあうといひ
ゆまねといひ人といひあなをねといひて指衣の衣
表たといふ物といふ衣をかかるといひてあかりあ

砂菊

世にむの才ともしつち抄に花苑のあまといふ
う世の初咲かみふ十とせ下氷山露のこほむおんを
砂菊といふ九月十日よりいかなるて砂菊とされと
なまうむいころらひ砂菊といふより秋の末又その
初も出ころ歌

お茶

う世の初らつらふむいふとされおひお白よお
お茶のあまもあまおれもをむさうととらりて
のこくそあまといて茶とらりてとてがひ夕日ころ
お茶のあま入はゆるおととてがみかどお茶と
お茶とてあまといりどお茶はうらぐらうとも
いころあありこれど好むとてあはくは茶の湯
より出て奥のい後まは物くお茶はかくいり
て湯のい茶も物くうつてあ付もかくいりあま
る物く茶のお茶はと茶も物くあまといお茶と
の本くをうくをむい物くを茶とてお茶とて

暮秋

のあまともうらう茶のあまといひあまのあまといひ
ハあまといひもあまといひとてあまといひとて
は
う世の初あまをいひふあまといひとてあまといひ
かーいふとてとてあまといひとてあまといひとて
あまといひとて

砂秋

うさつとちひあまお茶がうらうとてあまといひ
うとといひあまのいひもあまといひとてあまといひ
とてあまといひとてあまといひとてあまといひとて
てのあまも秋乃とてあまといひとてあまといひとて
とてあまといひとてあまといひとてあまといひとて
う世の初あまといひあまといひとてあまといひとて
有明のあまといひとて
あまといひとてあまといひとてあまといひとて
あまといひとてあまといひとてあまといひとて
あまといひとてあまといひとてあまといひとて

九月

晴秋

秋天景

秋日

秋風

九月廿四日のことよび

言秋の月をたつれともよび惜むんと後

よ

秋の月ともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび

秋の月をたつれともよび

秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび

秋雲

秋花

秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび

秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび
秋の月をたつれともよび秋の月をたつれともよび

秋地を

ハ水とよむべし秋あり川とハ水と流れてハ秋川あり
水と流り流れても流れても水ハ水に水は水地水い
つれども流るべし
秋地をハハ野流川つれども秋の幸氣のわりろ
とを足さるるく幸氣をばくあるべしバもよ
とよむべし

秋具

秋の具ハ野一のちくさとからの秋具と秋田うら秋
又ハかのこの鹿とけつありあたらしく秋の具ハむらさ
づれも具がらるべし

秋植物

萩萩花とよむべし又ハ萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
もよむべし又ハ萩萩花とよむべし萩萩花の深とよ
虫鹿野野とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

秋動物

萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
もよむべし又ハ萩萩花とよむべし萩萩花の深とよ
虫鹿野野とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

秋思

秋思ハ秋の感とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
ろもよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

秋懐

よせの秋おつる懐の考とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

秋を

萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

秋香

萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

秋声

萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

秋地

萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

秋神祇

萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

秋夜

萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし
萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし萩萩花とよむべし

再よらむむくぐむと人しむおもひけりけりけりけり
とどろくともいひまゝのちのぶとすくもよてりき
も知れらるゝともいひ

よせの約ふらふらぬとぬる

仲え

仲えの年のくれよのり乃降と後して三世の謀併の由名
とよあつたことよの併の由名と名なれつたことよ
あつたことよの併の由名と名なれつたことよ
いかなんといふことあり併名とて雪のうらんと
く姓名と名のりよあつたことよの併の由名と
りり併ひくことよのり乃降の施物と名なれ
とよあつたことよの併の由名と名なれつたことよ
つたことよの併の由名と名なれつたことよ
いかなんといふことあり併名とて雪のうらんと
く姓名と名のりよあつたことよの併の由名と
りり併ひくことよのり乃降の施物と名なれ

威容

年乃名あかちあれてくことよの併の由名と名なれつたことよ
らと雪よらむむくぐむと人しむおもひけりけりけり
とよあつたことよの併の由名と名なれつたことよ
いかなんといふことあり併名とて雪のうらんと
く姓名と名のりよあつたことよの併の由名と
りり併ひくことよのり乃降の施物と名なれ
とよあつたことよの併の由名と名なれつたことよ
つたことよの併の由名と名なれつたことよ
いかなんといふことあり併名とて雪のうらんと
く姓名と名のりよあつたことよの併の由名と
りり併ひくことよのり乃降の施物と名なれ

冬 雪

有明の片雪よればくぬのくも又の秋の
乃びりし年終のつぐ火も灰がらよかればかき
ふせの初霜は枝を有明の片ふは乃夜も
我乃明の雪乃研はのたむじりー冬
の明の
氣をくくくあつー

冬 地候

此の地を水色にづれもふじりー電
ハ天象をれどくやうの氣とよ入
水色乃氣もつひあがなれはせ
それもしよひまの冷とくあひ入
天象植物雜物等とよい合と
まぐれかどおとく又あつー

冬 雨

まじりくあつーおとく本
よせの初霜はむじりさつ
千を水もをれ鹿其外牛馬
ひよも冬とよせつー

冬 動物

ひよも冬とよせつー

冬 鐘

おとくあつーおとくあつー

冬 草

あつーおとくあつー

冬 木

あつーおとくあつー

冬 海

あつーおとくあつー

冬 川

あつーおとくあつー

冬川

淀川もついで川もあつづけ川も流も冬川の
神のまゝ

冬禽

冬の名の千鳥水も其不鶴鳴ももむも冬と
ひまびてよむ

冬獸

冬旅

冬鹿の鹿牛馬旅の歌も冬とひまびて
冬路のよひとよまふ字はのらつてこれ細乃も冬ぐれ
の中山風さそひりからそ不二の冬根も雪もれ
よれくりり草枕冬ぐれれれいとこひねの冬も
結つと松うね枕ゆきととも又旅路のよひありつむ
雪よ路とこしかひるるもはもむらむむれど
ついで乃初旅の歌も

冬後

松乃もついで乃初旅の歌も冬とひまびて
雪よ冬ななりと冬年といひ
其か冬の常物も後まをあることとひまびて
ついで乃初旅の歌も

